

3月テキスト

聖書は「ただイエス・キリスト」についての話です。私たちは、聖書を通して、ただイエス・キリストを見つける力を得ることが大事です。聖書のどこを開いても、「イエス・キリストの話」を発見しましょう。今月の人物を通して「ただイエス・キリスト」を発見して、神様がなさるみわざを見ましょう。

各課の内容は、テキストで默想しましょう。それぞれのフォーラムのポイントを出します。

2課 あらかじめ征服したダニエル

「どんな定め？」

ダニエル1:8に「ダニエルは・・・心に定め」とあります。偶像にささげた食物を食べないということを「定めた」ではありません。いまがバビロン捕虜の時代と同じ時代です。その時代に、私たちはどんなことを心に定めるべきなのでしょうか。そのことを考えてみましょう。

箴言16:9

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。

どれだけ、私たちが神様の前で決断して、「こんな人になりたい」「神様のために、このような人になります」と決断をして祈っても、それが神様のみこころと合わないなら、その決断はむだになります。神様と方向がちがうので、それは神様が喜んでくださることではありません。ですから、私たちががんばって、「神様のために、こういう人になり、このようなことをします」と決断するより、「神様が願われることがなにかに従って、私は神様のみことばどおりに生きるレムナントになります」という祈りをすることが大切です。



この世には、すばらしい人がたくさんいます。いま、戦争が起こっていて、多くの人が寄付したり、戦争をいっしょに戦おうと決断する人もいますが、しかし「その人の歩みを確かなものにするのは主である」ということばを心に刻みましょう。「私の人生は、神様の願われる道に従っていく人生になるように」と祈りましょう。

ダニエルは、自分が獅子の穴に投げ込まれることを知っていても、関係なく祈りました。自分は生きること、死ぬこと、関係なく神様に従いますということです。パウロも同じでした。パウロは次のように告白しました。

ピリピ 1:20-21

それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。

わたし 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。



パウロという存在は、すでにキリストによって死んだと告白します。(ガラテヤ 2:20)

ガラテヤ 2:20

わたし 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうち
に生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てにな
った神の御子を信じる信仰によっているのです。

わたし 私の中にはキリストが生きておられて、自分は死んでいますということです。ですから、「私は生きるにし
ても、死ぬにしても、私の身によってキリストのすばらしさがあらわされることを求めます」という告白で
す。

これから自分はどれくらい生きるのでしょうか。いつかそれはわかりません。私の残りの人生が、どうであ
っても、私を通して「イエス・キリストだけがあらわされることを求めます」という課題をもって祈りまし
ょう。